

## 四万十の源流域で、土佐和紙を創作する工芸作家。

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は四万十川源流域の梶原町にある「てんぐの風」で手漉き紙の制作・展示販売を行っているロギール・アウテンボーガルトさんを紹介しします。

ロギールさんは1955年オランダで生まれ、本年50歳になります。グラフィックデザインの学校を卒業後、図書館の本や美術本など希少性や芸術性の高い専門書のブックカバーを直す工房に弟子入りしました。

「ヨーロッパでは、本の価値が高くブックカバーを修復することは、図書館などにおいて重要な作業のひとつです。当初、私は表紙のデザインに興味がありましたが、修復の作業の技術を身につけていく中で、和紙への思いが強くなりました。そこで、和紙の原点の日本に行くしかないと思い、今考えれば無謀ですが、1980年にシベリア鉄道から、船を乗り継いで横浜へやってきました。日本についてから、埼玉県、京都府、兵庫県、福井県、島根県、鳥取県、高知県、九州各県、沖縄県といろんな紙産地を回り、沖縄県で尊敬する紙漉き屋さんから、『本気で和紙をしたいのなら、原料から植えて勉強しなさい』と言われました。そして、その人に最適な地域として教えられたのが高知県でした」と、紙のオリエント日本、そして高知にたどり着いた過程を流暢な日本語で話してくれました。

高知県紙業試験場で研修後、いの町でコウゾ、ミツマタ、クワを植えて和紙工芸をスタート。1992年に現在の梶原町・太田戸に移ってきました。四国カルストのすぐ下に工房を構え、紙の原料も近くの畑で栽培しています。創った和紙は近くのショールームにて展示販売をしており、ロギールさんの理想に近い創作活動が行われています。

四万十の源流域に活動の場をおいたロギールさんは、紙漉きを通して地域の環境教育にも関わりを深めており、1993年より総合学習の授業を受け持っています。山との関わり、水との関わり、そして人との関わり。単なる環境教育に終わらせず、日本の良い点を繋いでいき自然や地域の文化を大切にする心も育てて生きたいというロギールさんの想いは、きっと子どもたちに伝わっていくことでしょう。

●お問い合わせ／てんぐの風 TEL.0889-68-0028

<http://www.shimanto.or.jp/satellite/tengunokaze>



▲手すき和紙による創作灯り。



▲高知市で体験学習の実施。

### Topics

#### 梶原町太郎川「雲の上の温泉」広々リニューアル

「美人の湯」として人気を集めてきた「雲の上の温泉」が昨年末にリニューアルしました。新たな源泉(二号泉)からの引き込みに合わせて施設を改修していたもので、露天風呂は浴槽が2つから3つに増え、サウナ室も1.5倍ほど広くなって開放感が増しました。湧出量は毎分180ℓと、今までの約6倍あり、さらっとした一号泉に対し、ぬるっとした肌触りが好評。大雪の日には、南国高知では珍しい露天雪見ぶろも楽しめます。営業10時～22時(火曜は17時～)、大人500円、小人300円。

●お問い合わせ／雲の上の温泉 TEL.0889-65-1126